

城里町の文化財さんぽ(五三)

町指定文化財(建造物)

「小松寺観音堂」

こまつじ かのんどう
指定年月日／昭和五〇年三月三日
所在地／城里町上入野
管理・所有者／小松寺



▲小松寺観音堂

町指定文化財「小松寺観音堂」は、先月号で紹介した「十一面観音立像」を本尊として祀る仏堂です。

三間(約五・四メートル)四方の入母屋造の建物で、屋根は銅板葺です。堂の軒下は、赤く彩色された柱と、白く彩色された数多くの彫刻で飾られています。特に、尾垂木端部の竜頭の彫刻と木鼻部の獅子の彫刻は迫力があり、観る人

を圧倒します。

観音堂の内部には、本尊を安置する内陣や護摩壇が設けられており、ここにも華やかな装飾が施されています。内陣の来迎柱には力強い登龍の彫刻が施され、壁画には唐獅子が、格天井には草花が描かれています。

小松寺観音堂の歴史は古く、寺伝では、奈良時代に十一面観世音を祀る普妙院を白雲山山頂に開創したのを始まりとし、現在地に観音堂が移ったのは平安時代末のこととされています。

現在の建物は、建築様式からみて江戸時代の明和(一七八一〜一七八九)前後に建てられたものと考えられています。

解説文／町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局

☎ 029-288-3135



▲観音堂軒下の彫刻

俳句

快眠の朝の体操いわし雲

今瀬 多代美

紫の花の多かり秋の野は

中野 千賀子

神前の灯明ゆらぎ今年米

瀬谷 博子

彼岸花夕映え色を深くせり

綿引 英子

よき風が縁側を抜け天花粉

竹内 幸子

灯台を白と決めしは青嵐

田口 勝元

文芸しろさと

短歌

デイサービスの車にて通る山の

道やさしき合歓の花は真盛り

新しき令和なる世の平穏を

願ふ吾に幾年残るいのちか

渡辺 千紗子

ラベンダーの鉢植え持ちて娘の来

たり廊下に置きて日毎眺むる

所 美恵子

老いるまで楽しみながら活動

す今は感謝ししばし生きなむ

山形 式妙

老いてより知りあいとなりたる友

多く感謝で集ふゲートボール会

杉山 みちこ

明けそめる屋根の濡れをり夜千梅

仲田 まちゑ

夕ぐれの時分のチャイムやゆるる萩

寺門 孝子

川柳

心配は日韓よりも稲刈だ

富田 多蔵

世の中も気候も自然も想定外

車田 綾子

令和世も平和であれと神無月

川原 清

丁寧挨拶している稲穂かな

飯村 孝一



梅雨空に孫の発する声ひびき

大森 久子

色とりどりの紫陽花揺らす

足弱き我を案じて歩む息子の

背を秋風吹きすざてゆく

陽が落ちてひとり散歩の畑

道風の流れに菰の花揺れ

親の愛思わず知らず生きた

聞き残したる言の葉いくつ

富田 佐智子

新盆会訪う家毎に祭壇の遺

影に会いて寂しさの湧く

萩谷 登喜子

誘われて地域を越えた友達と

クロッケー場で今日も楽しく

蘭部 光子

